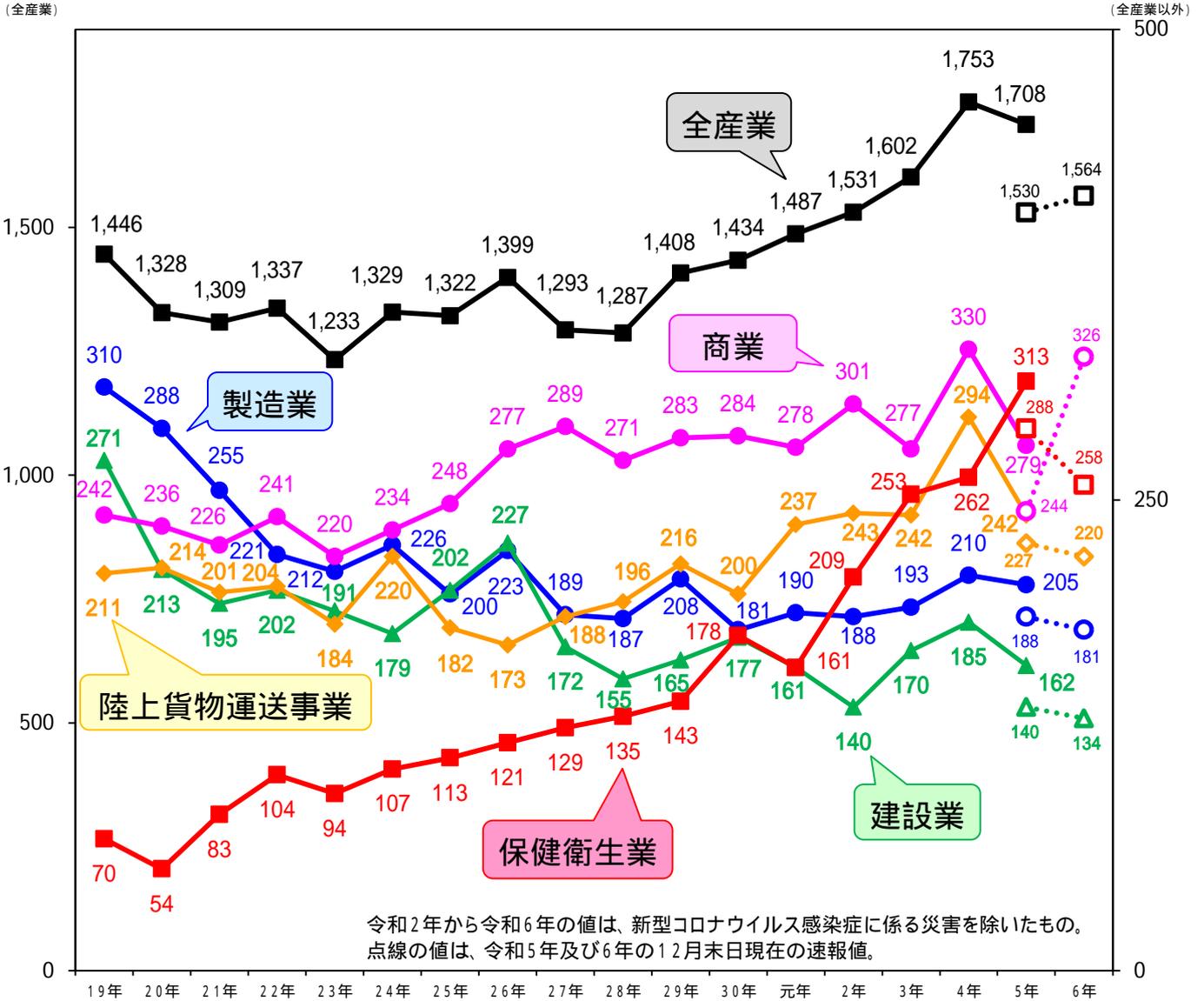


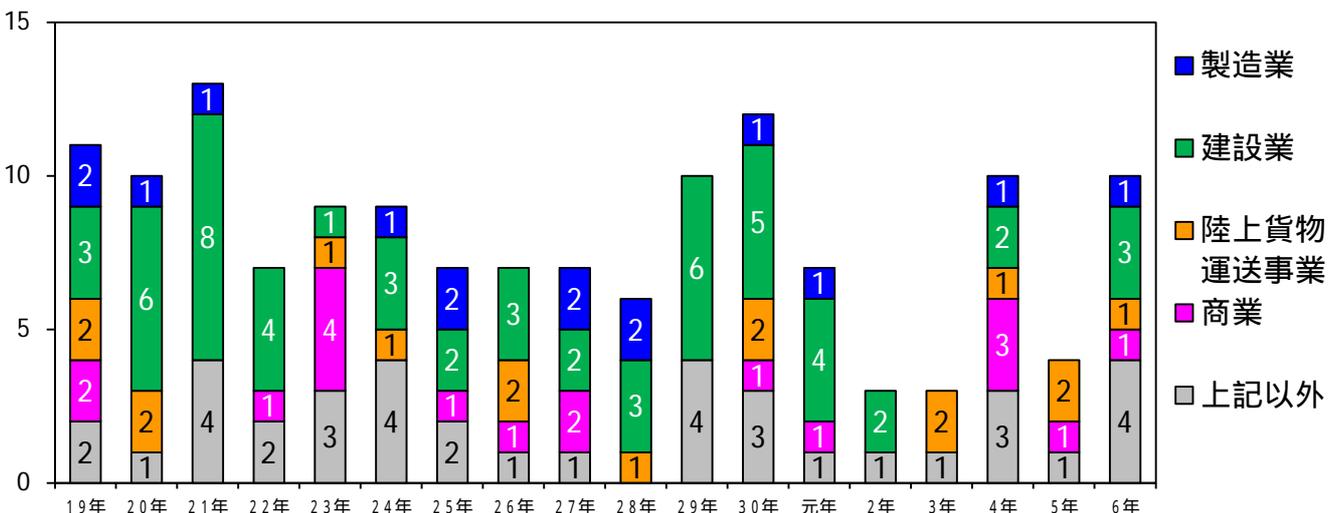
労働災害の現状 (令和6年の値は、同年12月末日現在の速報値)

さいたま労働基準監督署

業種別の死傷者数の推移

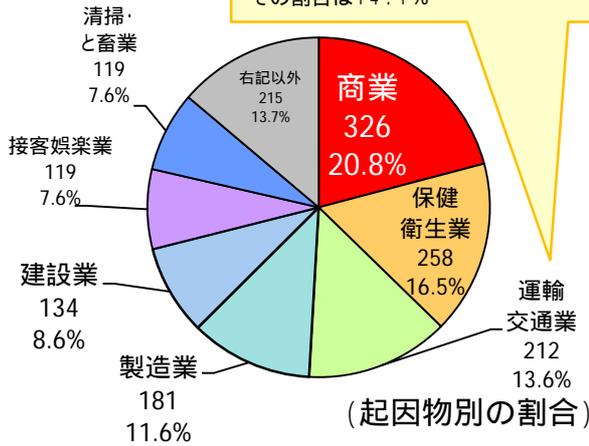


業種別の死亡者数の推移



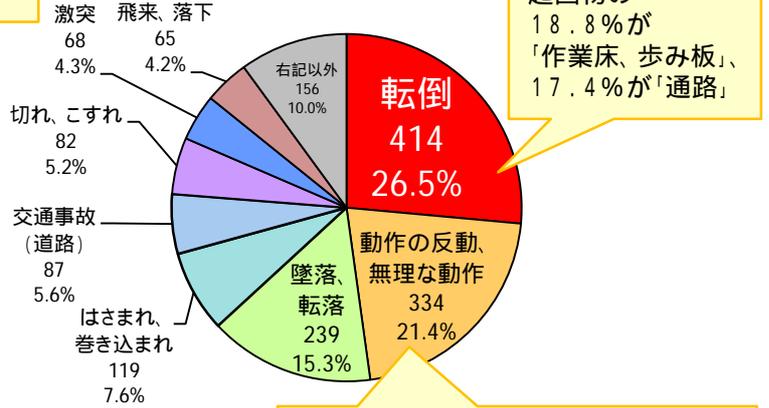
令和6年 死傷災害発生状況 (新型コロナウイルス感染症に係るものを除いた1,564件を集計)

(業種別の割合)



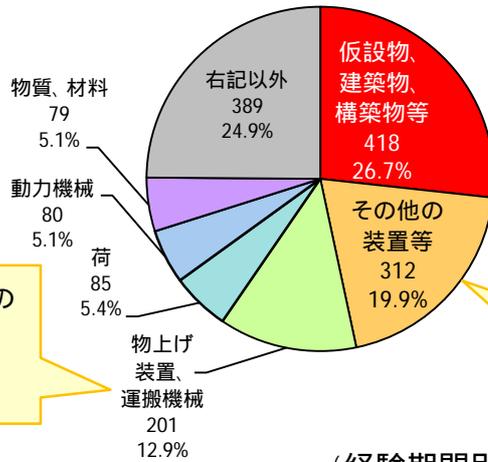
「道路貨物運送業」と「陸上貨物取扱業」を合計した陸上貨物運送事業は220件、その割合は14.1%

(事故の型別の割合)



起因物の18.8%が「作業床、歩み板」、17.4%が「通路」

(起因物別の割合)



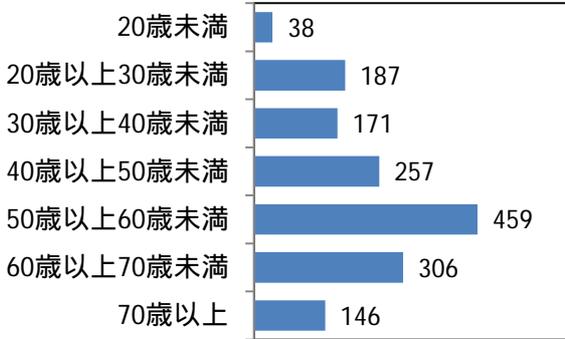
傷病性質の33.5%が「負傷による腰痛」、28.1%が捻挫等を含む「関節の障害」

「仮設物、建築物、構築物等」の25.8%が「階段、棧橋」、22.5%が「作業床、歩み板」、17.9%が「通路」

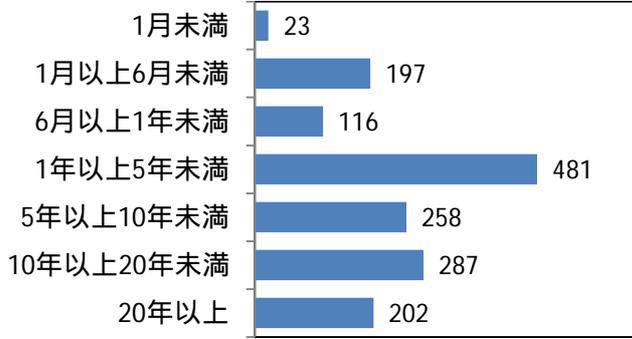
「その他の装置等」の28.8%が台車、ロールボックスパレット、自転車等の「人力運搬機」

「物上げ装置、運搬機械」の50.7%が「トラック」、36.8%が「乗用車、バス、バイク」

(年齢別の状況)



(経験期間別の状況)



主要な事故の型別の死傷者数の推移

